

令和3年度 愛媛県立松山北高等学校中島分校卒業証書授与式 式辞

瀬戸の海の色、潮の香り、空の色が青さを増し、山の樹木の新しい芽吹きに春の訪れが感じられる今日の佳き日に、PTA会長山本 宅也 様、後援会会長笹野 英樹 様、同窓会会長平兼 昇 様の御臨席を賜りますとともに、コロナ禍で保護者の皆様のご案内さえも危ぶまれた中、多数の保護者の皆様にご出席いただき、令和3年度愛媛県立松山北高等学校中島分校第72回卒業証書授与式を挙行できますことは、本校にとりましてこの上ない喜びであり、深く感謝申し上げます。

本日、松山北高校中島分校は、27名の卒業生を送り出すこととなりました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生、教職員、また、長井前校長や旧教職員の皆様とともに心からお祝い申し上げます。

皆さんは今、中島の美しい自然に囲まれ、中島の方々の愛情や優しさを感じながら過ごした学校生活を振り返り、大きな達成感を味わうとともに、新しい生活に向けて、未来への希望や可能性を胸に抱いて、高揚感に包まれていることでしょう。皆さんが中学生から大きく変わった環境を乗り越えて、自宅から通学し、家に帰るまでの毎日コツコツと積み重ねた努力に賛辞を送りますとともに、私自身この上ない喜びで胸がいっぱいになります。皆さんにとって、中島の方々の深い愛情や豊かな自然の中で育まれた「心」がいつまでも大切な宝物として、大きな財産になることを信じています。

また、保護者の皆様におかれましても、本日、お子様の晴れの姿をご覧になり、感慨ひとしおのものがあろうと拝察いたします。これまで、子供の成長を願い、辛いときには、ともに苦しみ、または励まし、支え、嬉しいときには、ともに喜び、お子様の背中をそっと押しながら育ててこられた深い愛情に、敬意を表しますとともに、ご卒業を衷心よりお喜び申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、昨年9月に本校では120周年の記念式が行われ、昭和54年本校第30回ご卒業の直木賞作家の天童荒太さんに記念講演で「生き延びるためのヒント」というタイトルで、生徒の質問に対して答えていただきました。その内容の一部を要約してご紹介したいと思います。

まず、「十歳代の大きな挫折は大切だと思いますか。また、今までの人生で一番大きな壁は何ですか。」の問いに対して、

天童さんは、「私の意見では全然大切じゃないです。挫折なんてしないで済むならそれに越したことはありません。大切なのは挫折ではなくて、挫折体験の傷を浅くして、ちゃんと癒してまた歩き始められるようになることです。心が傷ついたら、身体の傷と同様のケアが必要で、まず休んで、自分に優しくしてあげること、少しずつ挫折の傷がよくなってきたな、と思えたら、またゆっくり、自分のペースで歩き始めればいいんだと思います。

次に、「大きな壁は何ですか。」に対しては、皆さんも高い目標や夢を持っていれ

ば、目標の高さに合わせた高い壁が現れ、その壁を乗り越えた時の喜びは、確かに大きいのですが、ただ壁を正面からぶつかることや乗り越えることだけが大切なわけではありません。横にかわしたっていい。」とおっしゃっています。

天童さん自身、本当は、映画の世界に入って大きな仕事を志したらしいのですが、この壁は越えるに値しないと見切りをつけて、横にかわしたことで小説家への道が開けた」、「皆さんも高い壁は横にずれたら、無くなるということを頭に入れておいてください。」というヒントをいただきました。さらに続けて、「誰でも辛いことや苦しいことはあるのだから、自分だけと思わないでしっかりやれ、と言われたら、聞き流しておけばいい。人は心の傷にとっても無頓着です。根性で何とかなる、とか、自分は平気だから、他の人も平気だと思っている人さえいる。傷の受け止め方は人によってそれぞれ違います。早く立ち直れる人もいれば、少し時間のかかる人もいます。時間がかかったから、弱いということではありません。高い壁の話をしましたけど、ぶつかればいいというものではないのです。かわすのもいいし、逃げるのも全然悪くありません。私は、今まで一度も逃げたことがないという、そういう大人に会ったことはありません。大事なのは逃げないことではなくて、ここからは逃げたくないと思える場所や人に出会うことができるよう努力することです。皆さん自身が逃げたくないと思える場所や時間、仲間に出会うために、一度逃げることは少しも悪いことではないのです。」と前向きに考えるためのお話をしていただきました。

卒業生の皆さんを待っている日本社会や世界は今、大きな転換点に立っています。グローバル化、地球環境問題や世界各地で発生する紛争などが、これまで以上の速さで進行することが予測されるとともに、先行きが不透明で、予測困難な未来を迎えようとしています。皆さんには、他者への共感、多様性を尊重する態度、異なる考えの人々と話し合いを重ねながら、問題を解決していく力が求められています。

このような予測困難な時代だからこそ、皆さんが松山北高校中島分校の校是である「無から有を創り出す」という「開拓者精神」の真の意味を理解し、21 世紀を切り拓く創造性や新たな価値観をもって、自らの未来を力強く開拓し、豊かな実りを得るために、天童さんからのヒントである、逃げたくない自分の空間や仲間を見つけて挑戦することを期待しています。

結びに、中島分校を巣立ってゆく 27 名の皆さん自身が中島分校で一生懸命に自らの花を咲かせることができた努力と、新しい門出に向かう晴れやかで凜とした姿に拍手を送るとともに、皆さんの輝かしい未来を祈って、式辞といたします。

令和四年三月一日

愛媛県立松山北高等学校長 友澤 義弘